

こんにちは、古賀市し尿処理施設「海津木苑」です。
 海津木苑は、市内から発生するし尿や浄化槽汚泥等を安全に適正処理する施設です。

2021（令和3）年6月、古賀市で三代目となるし尿処理施設（汚泥再生処理センター）建設が地元鹿部区の皆様方のご理解とご協力を得て着工できましたことに厚く御礼申し上げます。

さて、今回は『うつぎえんだより』第二弾として、古賀市のし尿処理施設の今昔について前編、後編（10月）に分けお話しします。

古賀市し尿処理施設の今昔.その1

なくてはならない「し尿処理」
 し尿処理施設は、当時の生活様式や衛生状態が原因で発生する消化器系伝染病（赤痢・コレラ等）を防ぐため、昭和30年代から40年代にかけ「衛生」目的で日本全国に建設ラッシュがはじまりました。

初代古賀市のし尿処理施設
 古賀市も昭和39年に、当時の古賀町、福岡町、津屋崎町共同で消化器系伝染病の蔓延を防ぐことを目的に、初代し尿処理施設（古賀町外2ヶ町清掃施設組合）が建設されました。（昭和42年、当時の宗像町、玄海町が加入。古賀町外4ヶ町清掃施設組合となる）

生活様式も豊かになる中
 時代に並行して、昭和39年に開催された東京オリンピックを機に日本国内は高度経済成長期を迎え、生活様式も豊かになる中、日本各地で工場から排出される排水や排ガスが社会的に問題視されはじめました。

初代し尿処理施設の臭気公害
 初代し尿処理施設（以下、旧処理施設という）は消化器系伝染病から町民の命を守ることを最優先していたため、脱臭設備などの設備投資が遅れ、施設から発生する臭気が原因で、その結果臭気公害を出してしまい、その結果、旧処理施設周辺の子どもたちが学校でからかわれるなどの人権侵害事象が発生しました。

旧処理施設撤去へ向けた地元保護者の取組
 わが子が学校でからかわれていることを知った旧処理施設周辺の保護者は、古賀町議会や古賀町外4ヶ町清掃施設組合へ、施設設備の改善または、施設の撤去を訴える請願書の提出や直接議会へ向かい、実情の説明を精力的に行いました。

初代し尿処理施設の閉鎖
 時代のニーズに対応できなくなった旧処理施設は、昭和54年3月供用開始後15年で施設を閉鎖しました。

次号へつづく

建設工事進捗状況



4月18日



7月15日

工事進捗率 **22.9%** (7月29日現在)

古賀市し尿処理施設の歴史展 開催 8月10日～8月25日 10:00～20:00
 (パネル展示 & ビデオ放映) 場所: ししぶ交流センター (エントランス)

どなたでも視聴できます。お気軽にお越しください。